

配布資料

鹿島灘・外房の港湾における地震・津波対
策検討会議(第2回)

◎前回会議での主な意見

| 検討項目 | 第1回鹿島灘・外房会議(9/28)での主な指摘事項 |
|-----------------------------------|---|
| ■ 防災・減災目標の明確化 | |
| ○最大クラスの地震・津波への対応 | 3つの震源域(①東海・東南海・南海+日向灘+沖合プレート運動型、②元禄関東地震再来型、③茨城沖・房総沖運動型)を想定しているが、東日本大震災の震源域も想定した方がいいのではないか。また、ある地震が、局所的に最大の津波を引き起こす可能性があり、他の地震も想定していくことも検討する必要があるのではないか。 |
| ○発生頻度の高い地震・津波への対応 | 今回は、最大津波(レベル2)を検討するということで、レベル1について議論をしないということで良いか。 |
| ■ 産業活動、まちづくりと連携した防護ラインの設定 | |
| ○想定津波浸水域の見直し | 東日本大震災時を想定したシミュレーションの再現性の確認はしないのか。 |
| ○港湾における防護ラインの設定 | 今回の地震動は、振動が長かったことで、護岸などが予想以上にダメージを受けた。今回、防波堤の沈下を検討するということだが、どのような沈下が想定できるのか。 |
| ■ 港湾の産業活動・まちづくりと連携した防護のあり方 | |
| ○地域防災計画、海岸保全基本計画の見直し | 津波の計画がされていないため、初動に対応できなかった。 |
| ○防護ラインの見直し | 防波堤を上から見ていた住民が波を跳ね返している状況を確認。防波堤整備は環境破壊だと言われてきたが、今回のことがあって評価を受けた。引き続き防波堤延伸事業を継続願いたい。 原子力関係の港湾もあるため、シミュレーションにあたっては、できる限りメッシュの細かいデータを提供願いたい。 |
| ○防波堤、海岸保全施設のかさ上げ、粘り強い構造への転換 | 海岸線の延長が非常に長いので、防波・防潮堤の整備等が非常に重要。 |
| ○港湾BCPの促進 | 今回の地震では、深刻な停電が発生した。夜間に震災が発生した場合の対策が重要。 |
| ○海岸データベースの充実 | - |
| ■ 避難対策の強化のあり方 | |
| ○津波ハザードマップの見直し | 東日本大震災では、避難における「情報伝達」に問題があった。 避難対策の強化のため、ハザードマップを作成・配布したい。 避難訓練、津波予想高の標示、FM利用など、役立つ対応策を実施したい。 |
| ○避難計画、避難施設の見直し | 港湾で働く人間の安全確保は必須と考えるが、港周辺では、高い場所やビル等が少ないため、避難施設等の整備や港内や地域の防災無線の整備が必要である。 |
| ■ GPS波浪計の設置海域のあり方 | |
| ○GPS波浪計の設置海域のあり方 | 津波観測が可能なGPS波浪計が、当該周辺海域にない。 |
| ■ 首都圏の特性を踏まえた地震・津波対策 | |
| ○臨海工業地帯の地震・防災対策 | 二十数機のタンクヤードがあり、それらを守る防護施設が必要だと市民から要望がある。 |
| ○発災時における船舶の安全性の確保 | 津波で港内に船舶が滞留し、コントロールが出来なくなってダメージを受けた。 |